

2020年8月18日

国民民主党

代表 玉木 雄一郎 様

国民民主党長野県総支部連合会

代表 篠原 孝

国民民主党の分党に反対し全党を挙げて新党合流を求める要望書

国民民主党は本年1月の定期大会で、できるだけ幅広く野党勢力をまとめていくために他の政党や会派との協議を進めることを全党で議決し、一丸となって対応を進めてきた。

私たち国民民主党長野県連は、この方針は何よりも安倍一強の自民党政権に対抗し、政権交代をめざす最善の道であるとの観点に立ち、政党の合流促進に力を尽くしてきた。

国民民主党本部は以降、立憲民主党との合流新党づくりの協議経過を報告し、その都度、国会議員、地方代表等で承認し対策強化を確認しあってきた。

玉木代表はこうした経過や、全党合意の意向を最大限尊重すべきであるにもかかわらず、8月11日に突如、国民民主党を新党合流派と分党派に分裂させ、事態を乗り切るとの方向を提示するに至った。

こうした考えは、まさに野党が協力し合って大きなまとまりをつくるとの国民民主党の当初の基本的な方向付けを突き崩すものであり、分党を唱えるに至っては党内の議論を欠いた一方的な主張で全く受け入れられないものと考えられる。こうした新党づくりの目標を見失った方針提起は何としても避けなければならないところである。

立憲民主党との合流新党づくりは全党の総意を結集して取り組んできた経過があるだけに、一丸となって新党に合流移行していくのが組織の筋道と考える。

玉木代表が主張している憲法や消費税の政策課題については、今後、新党への合流後に、様々な議論の場で積極的に議論を積み重ね合意形成を図っていくようにすべきものと考えられる。

当長野県連は、以上の基本的な考えに立って、この度の組織に深い亀裂をもたらす分党構想に強く反対するとともに、玉木代表におかれては国民民主党の命運のかかった新党合流について、組織の取りまとめ役として、全党が一致して新党合流に参加できるよう責任を果たすことを強く求めるものである。